



第7回行動神経科学セミナー

第4回早大環境医科学研究所セミナー のお知らせ

ストレスと脳： 幼少期ストレスが脳の可塑性に及ぼす影響から ペリニューロナルネットまで

講師：西 真弓 先生

奈良県立医科大学 第一解剖学講座教授

日時： 2017年2月16日（木） 14:45～16:15

場所： 早稲田大学所沢キャンパス第四会議室（100号館5F）

西先生は脳発達の分子メカニズムに関する研究を行っています。現在では広く使われている GFP や FRET による細胞の可視化技術をいち早く実験に取り入れ実用化し、ステロイドホルモン受容体のイメージングに成功されました。京都府立医大から奈良医大教授に着任されてから西先生が重点をおかれているテーマである「幼少期のストレスが生育後の脳の神経回路形成や可塑性、内分泌の調節機構などに影響を与える分子基盤」についてご講演いただきます。

本セミナーはどなたでも参加いただけます。興味のある方は奮ってご参加ください。

概要

成人が患う多くの精神神経疾患において、幼少期の虐待（身体的、性的および心理的虐待、育児放棄（ネグレクト）など）は 最高レベルの危険因子であると言われている。しかしながら、幼少期の一過性のストレスが生涯にわたって行動に影響を及ぼす分子基盤は未だ完全には解明されていない。

本セミナーにおいては、幼少期ストレスのモデル動物である母子分離マウスを用いて幼少期ストレスが脳に及ぼす影響について解析した研究を紹介する。さらに、この研究の過程において私たちが最近視床下部領域に見つけたペリニューロナルネットに囲まれた新たな神経領域について、構成する神経細胞、神経ネットワーク、機能についても概説する。

問い合わせ先： 行動神経科学研究室(535号室)掛山 kake@waseda.jp